


 今
回
の
内
容

- ① 医療連携懇話会の申し込みフォームが変わります 三好旭
- ② 診療科紹介 ～小児外科～ 野口伸一
- ③ 第147回医療連携懇話会について 玉木みずね
- ④ リハビリコラム 森川明
- ⑤ お知らせ (次回の医療連携懇話会のお知らせ・媛さくらネットについて・メール登録のご案内)

① 医療連携懇話会申し込みフォームが変わります

地域医療連携室

日頃は地域医療連携室の活動にご理解、ご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、令和8年1月の医療連携懇話会から、お申し込み時の入力フォームが変更になりました。

今回は入力フォームのシステムのみの変更になります。お申し込み後は送信完了画面で受付番号が表示されますので、その時点で受付完了になります。Web参加の方には開催前日に招待メールを送信いたします。

医療連携懇話会のご案内につきましては、これまで通りハガキまたはメールにて登録医療機関の皆様へお知らせいたします。二次元バーコードやリンクからご案内ページに移動し入力フォームへアクセスしてください。

これからも利便性向上に努めてまいりますので、地域医療連携事業について引き続きご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

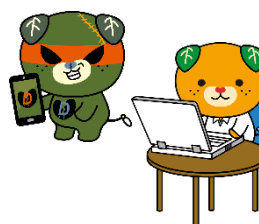
地域医療連携室はコチラから Click!

医療連携懇話会のお申し込み方法

1

当院ホームページ「医療連携懇話会のご案内」ページから「医療連携懇話会申し込みフォーム」へ移動します。

案内ハガキ・メール・
当院ホームページの
お知らせ欄から



医療連携懇話会のご案内

▼ 医療連携懇話会について

▼ 第147回医療連携懇話会

▼ お問い合わせ

■ 医療連携懇話会について

愛媛県立中央病院では、登録医の先生方をはじめとする地域の医療機関の先生方やメディカルスタッフの方々と、当院の医師との相互交流や、当院の医療連携レベル向上のために、2004年から医療連携懇話会を開催し、顔

Ⅰ 申し込み

[医療連携懇話会 申し込みフォーム \(お申し込みはこちらよりお願いします\)](#)

※最終申し込みは開催日前日の午前10時までとさせていただきます。

2

フォームに必要情報を入力してください

医療連携懇話会参加申し込み フォーム

入力フォーム

1 入力 2 確認 3 完了

下記のフォームにご入力をお願いします。

医療連携懇話会申し込みフォーム
本フォームは愛媛県立中央病院（愛媛県立中央病院）の「医療連携懇話会」の参加申し込みを行うフォームです。
次の注意事項もご確認ください。必ず事項を入力してください。

※申し込みは、【お名前】とさせていただきます。
※ご入力いただいた個人情報は、本懇話会の運営目的以外に使用することはありません。また、医療データは暗号化技術により保護しています。
※本病院の個人情報保護方針（<https://www.ech.pref.ehime.jp/med/privacy.html>）を御覧ください。同意していただく場合のみ、お申し込みいただけます。

懇話会概要
・日時：2025年1月14日（水）19:00～20:00
・テーマ：未定

氏名（漢字） ※氏名の間にスペースは不要です。 必須
0 / 60000

氏名（かな） ※氏名の間にスペースは不要です。 必須
0 / 60000

所属医療機関名 ※正式名称をご記載ください。 必須
0 / 60000

メールアドレス 必須
メールアドレス（実用） 必須 0 / 128

出席方法 必須
☐ 来院 ☐ オンライン

→ 確認画面へ進む 入力内容を一時保存する

← 1つ前の画面に戻る

→ 送信

確認画面で「送信」ボタンをクリック

送信完了

ご入力ありがとうございました。

< 受付番号: test000000 >

入力内容を印刷する

最初の画面に戻る

申し込み完了！

Web参加の方には開催日前日に
招待メールを送信いたします。



② 診療科紹介 小児外科

小児外科 主任部長 野口 伸一

小児外科は新生児から中学生までの小児を対象とし、鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、臍ヘルニア、停留精巣、虫垂炎、新生児外科疾患、小児悪性固形腫瘍、ヒルシュスブルグ病などの消化管疾患、胆道拡張症や胆道閉鎖症などの肝胆道系疾患など幅広く治療しています。例年の当科手術症例数は110-130例で、うち最も多いのは鼠径ヘルニアで関連疾患の陰嚢水腫の手術と併せて60-80例です。一般社団法人National clinical databaseによる手術統計によると2023年に全国で13,868例の小児鼠径ヘルニア類縁疾患手術が行われておりそのうち8,109例（58.5%）が腹腔鏡下に手術されています。当院ではほぼ全例を腹腔鏡下に手術しておりますが、手術侵襲が少なく術創がほとんど目立たない点や、対側の検索・追加手術が容易な点からご家族から喜ばれています。今回は当院で行われている腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure (LPEC法)に関する当科および関連施設で行った2つの研究をご紹介します。

1. 小児の腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術における術後感染予防抗菌薬の必要性について

本来清潔手術である小児腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術における予防抗菌薬の使用については議論があるため、腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術後の手術部位感染（SSI）率に対する影響を評価しました。2017年から2022年までに同手術を受けた小児患者365名について後方視的に検討しています。うち49%（n=179）が予防抗菌薬を投与され、51%（n=186）は投与されていませんでした。投与群では3例（1.6%）、非投与群では2例（1.1%）に表在性の手術部位感染がみられました。感染発生率は両者間に有意差は認めず、予防抗菌薬の日常的使用は必要ないと結論されました。現在我々は予防抗菌薬を使用しておりません。

2. 小児再発性鼠径ヘルニアに対するLPEC法の有用性：多施設共同・後方視的研究

小児鼠径ヘルニアの術後再発率は1%未満と稀であるため再発例に対する手術の術式に関する研究は少なく、また対象症例数が少ないものでした。そこで我々は、再発例に対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復群（LPEC群）と鼠径部切開による修復群（切開群）の手術成績を比較する多施設共同研究を実施しました。2012年から2021年にかけて当院および関連病院13施設において小児鼠径ヘルニア修復術は8,586例行われ、うち再発例は74例認めました。それに対しLPECで手術された群は59例、切開群は15例でした。術後の成績はLPEC群では6例（10.2%）が再々発を経験したのに対し、切開群では再々発は認められませんでした。

統計学的には有意差はみられませんでした。LPEC群の再々発率が高い傾向がみられたため、小児鼠径ヘルニアの術後再発例における腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術は、術式のさらなる検討や個々の症例の選択が必要と考えられました。

最後に、当科は小児外科指導医、専門医が複数所属しており、365日急患に対応できる体制を敷いています。産科、新生児科、小児科の諸先生方と連携し、愛媛県の小児医療に尽力したいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

③ 第147回医療連携懇話会について

副院長・総合診療科 主任部長 玉木 みずね

令和7年11月12日、第147回医療連携懇話会は成人と小児の膠原病をテーマに3人の演者が講演しました。膠原病は、わかりにくいつかみどころのない病として、なんとなく苦手なイメージをもたれることが多いのではないのでしょうか。

当院の膠原病診療の状況を申し上げますと、演者の一人、小児科の中野直子医師は全国的にも数少ない小児リウマチ専門医（四国に1名）で、長らく第一人者として愛媛県の小児膠原病診療をけん引してきました。一方、成人の膠原病は昨年度まで当院に専門医が不在で、それぞれの臓器障害に応じて呼吸器内科、腎臓内科、脳神経内科、皮膚科、総合診療科などが対応しておりました。包括的な膠原病診療の提供が長年の課題でしたが、今年の4月に膠原病に精通した三好俊太郎医師が赴任して、当院でも本格的な成人の膠原病診療が始まりました。

今回、この二人の医師による膠原病の講演と、薬剤師による膠原病関連薬剤の説明がなされました。要約は以下の通りです。

『こどもの膠原病の特徴と愛媛県の実態について』 小児科 中野 直子 医師

こどもの膠原病の代表的疾患として若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎について、それぞれの症例が提示され、特に幼い子どもは症状を訴えることができないので膠原病を想起しにくいという点に治療の開始が遅れると成長に著しい障害を残しかねないことなど、診断・治療に際して小児特有の困難さが示されました。子どもの膠原病の特徴、問題点として、病初期が成長期にあたり、長期にわたること、経過が進行性で多臓器障害が重篤であること、治療薬が限られていること、薬の副作用に小児特有のものがあること、心理社会的未熟性があり家族込みの診療が必要であること、学校/園との連携や進学へ配慮が必要であること、結婚出産就職など移行期医療の確立、等様々な問題を抱えていることが示されました。

当院では県下から集まる小児膠原病患者に対して小児科全体が一丸となって強力なチーム医療を提供していることが紹介されました。

『膠原病とは』 総合診療科 三好 俊太郎 医師

膠原病の総論的な解説がなされ 代表的疾患として関節リウマチ、多発性筋炎/皮膚筋炎、強皮症、血管炎があり、膠原病を疑う症状/身体所見として乾燥症状、口内炎、甲状腺腫大、関節痛、筋痛、皮膚症状、陰部潰瘍、発熱、倦怠感が挙げられました。

また、肺は膠原病の重要な標的臓器であり、肺疾患が主要な死因であることから特に注意が必要であると強調されました。関節リウマチの治療方針について、血清学的に陽性が陰性かによって選択する治療薬が異なることが具体的に示されました。

まとめとして、膠原病は免疫異常を背景とする全身疾患であり、身体所見で疑われた時点でご紹介いただきたいことをお願いして締めくくられました。

『関節リウマチと炎症性腸疾患の生物学的製剤について』 薬剤部 山本 美穂 薬剤師

山本薬剤師からは、関節リウマチ、潰瘍性大腸炎の治療薬について詳細な解説がありました。関節リウマチには非ステロイド性消炎鎮痛薬、副腎皮質ホルモン、抗リウマチ薬、生物学的製剤、JAK阻害薬があり、それぞれの役割、作用機序、使用上の注意点が示されました。潰瘍性大腸炎の治療薬は、5-ASA製剤、副腎皮質ホルモン、チオプリン製剤、カルシニューリン阻害薬、JAK阻害薬、生物学的製剤、スフィンゴシン1-リン酸受容体調節薬があり、作用機序、使用法、効果発現時期、副作用などについて解説されました。

また、さまざまな生物学的製剤の解説と、経口新薬であるスフィンゴシン1-リン酸受容体調節薬について紹介されました。

[総合診療科はこちらから Click!](#)[薬剤部はこちらから Click!](#)

『どうも リハビリです②』

④ リハビリって何ですか？（今と昔） リハビリテーション部 部長 森川 明

私は県立病院36年勤務の理学療法士です。私が新規採用の当時よりも医療者・患者さんのリハビリに対する理解は深まっていると感じています。

『リハビリとは、病気やケガなどで身体に障害のある人の身体機能や動作能力等の向上に貢献できる、広義的には、患者さんに寄り添いQOL（生活や人生の質）が高められる治療法を目指しています。』

現在はリハビリ専門職が携わる疾患は多岐にわたっており、早期からのリハビリ開始が基本となっています。（詳しくは [当院ホームページ](#) リンク先：愛媛県立中央病院）

これからも当院リハビリ療法士は多職種で地域連携を図り、患者さんの希望に沿ったリハビリを心がけていきますのでよろしくお願いいたします。

⑤ 次回の医療連携懇話会のお知らせ

お申込・詳細はコチラから [Click!](#)

第148回 医療連携懇話会

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

日時 令和 8 年 1 月 14 日 (水) 講演 19:00~20:00

場所 愛媛県立中央病院 講堂

テーマ 『つながるIBD診療

ー 潰瘍性大腸炎・クローン病に対する遠隔連携診療・栄養サポート・薬剤指導の最前線 ー』

講演 「地域をつなぐ潰瘍性大腸炎・クローン病診療の新しいかたち、遠隔連携診療」

IBDセンター長 北畑 翔吾

「IBDの食事、栄養療法」

栄養部 管理栄養士 宮下 真結子

「IBD診療における薬剤師の関わり」

薬剤部 薬剤師 古田 光平

お申し込み方法 ホームページの申し込みフォームからお申し込みいただけます。

★当日のご参加も可能です（フォームからのお申し込みは、懇話会開催前々日の午前10時まで）

第149回 医療連携懇話会

日時 令和 8 年 3 月 11 日 (水) 講演 19:00~20:00予定

場所 愛媛県立中央病院 講堂

テーマ 『私の歩んだ道（仮）』

座長 座長：麻酔科 主任部長 中西 和雄

地域医療連携ネットワークサービス

媛さくらネット

Information

アレルギー情報へのアクセスが簡単になりました！

<2025年現在閲覧できる項目>

- ・処方・注射・検体検査・病名・退院サマリ・画像（放射線、エコー、生理検査）
- ・循環器動画・放射線画像診断レポート（退院時サマリは2023年4月1日以降の情報となります）

こんな
メリットが

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細はコチラから [Click!](#)

- ・地域で一貫した医療をご提供
- ・検査や投薬の重複をさけ、医療費負担削減

参加
無料

次号の地域連携室便り

次回3月号は、2026年3月下旬頃刊行の予定です。お楽しみに！



メール登録のご案内



各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただいております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。

動画視聴のみを希望される医療機関関係者の皆様のご登録も受け付けております！

メールの
ご登録で…

- ・医療連携懇話会の限定公開動画がご覧いただけます
- ・医療連携懇話会のご案内
- ・地域連携室便りの更新のご案内などが届きます！



ご意見・ご要望も
お寄せください



動画配信の
3つのポイント！



①
お好きな
場所で



②
お好きな
時間に



③
繰返し
再生！



◆お申し込み方法①

- ・下記の地域医療連携室のメールアドレスへ、以下を記載し送信してください。

<件名> メール登録（医療機関名）

<本文> 医療機関住所、電話番号

<動画視聴のみのご希望の場合> 「動画のみ」と記載をお願いします

E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

◆お申し込み方法②

- ・本用紙でのお申し込み

-----キリトリ-----✂

- ・愛媛県立中央病院 地域医療連携室に下記の登録をいたします。

<医療機関名> _____

<医療機関住所> _____

<電話番号> _____

<動画視聴のみのご希望の場合> ☐ 動画のみ希望（チェックをお願いします）

<メールアドレス> _____ @ _____

- ☐ 今回医療連携懇話会に申し込んだメールアドレスを登録します（チェックをお願いします）

ご記入いただきました個人情報、必要なセキュリティ対策を講じ、厳重に管理、メール送信の目的にのみ利用させていただきます。